

通信特許ライセンスの米連合、独BMWと契約 日本企業との交渉にも注目

日本経済新聞 朝刊

2017年12月25日 2:30 [有料会員限定]

世界の大手通信業などが持つ主要特許のライセンス交渉を取りまとめる米国の企業連合組織「アバンシ」がこのほど、独自動車大手BMWと包括的なライセンス契約の締結で合意した。BMWは通信関連の車載部品がある場合、生産する自動車1台あたり3～15ドルの特許料を支払う。通信と自動車という異業種間の大規模交渉で合意したのは今回が初めてという。

アバンシは同じ価格基準の適用を前提に、日本メーカーを含む他の自動車大手ともライセンス交渉を進めていく方針だ。日本の各社の対応が注目される。

アバンシはスウェーデンの通信機器大手エリクソンや日本のパナソニックなど、無線通信の主要技術を持つ企業の連合組織。メンバー企業で第4世代（4G）までの通信規格の主要特許の約半分を占めるといい、アバンシが外部に一括してライセンス交渉をしている。

あらゆるモノがネットにつながる「IoT」の普及で、通信機能を備える自動車も増えている。アバンシは標準規格を満たす製品を造るために使わなくてはならない「標準必須特許」の多くを保有しているとして、16年ごろから世界の大手メーカーにライセンス交渉を呼びかけている。